

「かけがえのない思い出となった 6 日間」

岡田杏奈

今回の派遣プログラムは、学校からの 1 枚の手紙で知りました。そして絶対に参加したいと思いました。なぜなら私は、英語がとても好きだし将来は英語を使った職業に就きたいと思っているので今回の派遣は、必ず将来に役立ち自分のためになると思ったからです。

初めて国際電話をかけた時の緊張感は今でも覚えています。電話だと相手の表情を見ることが出来ないのもとても不安でした。だけど電話で話す度に少しずつ不安も無くなり、聞きたいことはすべて電話で知ることができ、行く前からコミュニケーションがとれて良かったです。

グアム空港に着くと「Anna! Welcome to Guam!」と言って Daniel は駆け寄ってきてくれて可愛い貝のネックレスを首にかけてくれました。恋人岬へ向かう車の中でも話がたえなくてとても楽しかったです。

チャモロビレッジでハンバーガーを食べました。その時、私の顔より大きくて両手で持ちきれないアメリカンサイズのハンバーガーにびっくりしました。ココナッツの皮を切るのをチャレンジしたけど硬くてまったく切れませんでした。

ヤドカリの大きさにもびっくりしました。



イナラハン文化村での写真

私/Bruce/きよつきよ/Christian/Daniel

セント・フランシス・スクールでは、皆フレンドリーで「Hi!」と言ってくれてすぐに友達になることができました。授業は、ホームルームのメンバーで教科ごとに教室を移動しました。授業中なのにお菓子を食べたり、立ち歩いたり、写真を撮ったりしてたのしかったです。イナラハン文化村でココナッツのでき方やオイルの使い方、縄の作り方、塩の作り方などを教わり、バナナの木も見ました。フルーツワールドではたくさんのお菓子の種類を知りました。Daniel の家でのパーティーはいとこや友達を合わせて 40 人以上いました。初めてパーティーに出席したので人の多さに圧倒されました。

グアムから帰る時、空港で涙が止まりませんでした。Daniel family とは深い絆ができました。グアムの家族の温かさや友達への優しさに私はとても感動しました。Daniel family や友達、感動を与えてくれたグアムとお別れをするのがとても辛かったです。これからも電話やメールなどでより絆を深めていきたいです。

柏・日本とグアムの文化の差はかなりありました。習慣・食生活が違うなかで身をもって生活ができたこと、言葉がちがう場所で自分の気持ちを伝えることはとても困難でもありチャレンジでもありました。このような貴重な経験をさせてくださり協力をしてくださった方々に心から感謝しています。私は今回、経験したことを将来に役立たせたいです。この 6 日間は私にとってかけがえのない思い出となりました。I LOVE GUAM!!